

# 埼玉高速鉄道株式会社 経営改革プランについて

## 1 埼玉高速鉄道の現状

輸送実績は堅調に推移しており、経営状況も好転している。

平成 21 年度決算には補助金を除く償却前黒字を達成する見通しである。

### (1) 輸送人員の推移

単位：万人/日 (H21 は 10 月末現在値)

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
定期	3.0	3.5	3.9	4.3	4.7	5.0	5.4	5.7	5.9
定期外	1.7	1.9	2.0	2.2	2.2	2.5	2.6	2.7	2.6
合計	4.7	5.4	5.9	6.5	6.9	7.5	8.0	8.4	8.5

### (2) 損益収支の推移

単位：億円

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
営業損益	51.8	53.3	42.3	35.7	29.8	21.4	18.5	18.8
償却前損益	33.7	33.8	13.4	6.2	0.6	2.1	6.8	8.9
(補助金を除く)			23.4	16.0	10.0	7.4	3.0	0.2
最終損益	88.2	90.4	70.0	62.8	52.8	45.0	39.8	38.8

## 2 経営課題

当面、景気の悪化に伴い旅客需要の高い伸びが期待できない状況にある。

当面、有利子負債を確実に返済していくための資金繰りが厳しい状況が続く。

### (1) 基礎的収支、支払利息、借入金元本返済額の推移

単位：億円

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
収入	51.4	58.1	62.5	66.7	69.1	74.9	79.3	81.5
支出	52.9	59.0	52.4	50.1	46.6	49.4	51.4	52.7
基礎的収支	1.5	0.9	10.1	16.6	22.5	25.5	27.9	28.8
支払利息	32.7	33.5	33.1	32.8	32.0	30.8	31.3	29.8
借入金元本返済額	23.3	36.9	48.8	51.0	55.5	63.0	67.7	97.7

### (2) 有償資金の状況

区分	開業時	20年度決算時	増減額
有償資金の額	1,575億円	1,455億円	120億円

### 3 今後の経営見通し

沿線は高いポテンシャルがあり、10地区で計画人口7万人の土地区画整理事業が進行中である。  
将来的には採算ベースに達する旅客需要が見込める。

#### (1) 沿線人口の推移

単位：万人

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
沿線計	41.7	42.3	42.7	43.3	43.9	44.3	45.0	45.7	46.3
沿線増加率	0.7%	1.5%	0.9%	1.3%	1.4%	1.0%	1.6%	1.5%	1.3%
県増加率	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%

#### (2) 輸送人員の将来見通し

単位：万人/日

年度	H21	H25	H30	H35	H40	H45	H50	H55
輸送人員	8.4	10.1	12.7	14.3	14.4	14.8	14.3	13.8

### 4 経営改革プランの骨子

#### (1) 経営改革プランの目標

経営の持続的な安定と早期の自立化を図る

#### (2) 経営改革プランの期間

平成22年度～平成31年度

#### (3) 県及び沿線3市の支援

経営基盤の強化（出資）： 資金収支を悪化させないための経営基盤の確立

資金調達の円滑化（貸付）： 損失補償付き民間融資から直接貸付けへの転換

#### (4) 県及び沿線3市の役割

計画的な沿線開発を進め、地域資源を活用した沿線の魅力づくりを促進する

沿線に企業や施設を誘致し、沿線の活性化など事業環境を整備する

#### (5) 埼玉高速鉄道株に求める経営改革の方向

経営目標の設定： 平成26年度・営業損益の黒字化、平成31年度・経常損益の黒字化  
徹底的な経費の削減と増収増客努力

効率的な業務執行体制の確立と人件費の適切な見直し

#### (6) 経営改革プランの進行管理

埼玉高速鉄道株： 経営改善計画の策定と着実な実行及び成果の公表

県及び沿線3市： 「埼玉高速鉄道株経営懇話会」等による会社の取り組みの検証